

# お元気ですか



長浜市立湖北病院  
内科部長 村頭 智

## 貧血について

貧血とは血液中のヘモグロビン(血色素)が減少した状態です。ヘモグロビンは全身に酸素を運搬する働きをしており、ヘモグロビン量が低下すると顔色が悪くなる、息切れを感じる、めまいがするなどの貧血症状が表れます。さらに貧血が高度になると、呼吸困難が起きることもあります。そのため、健康診断等で貧血を指摘された場合は、自覚症状がなくても精密検査を受けることをお勧めします。

貧血は原因によって様々な種類がありますが、日常で診断される貧血で最も多い(90%以上)のは、鉄分の不足によって起こる「鉄欠乏性貧血」です。

鉄欠乏になるのは、女性では生理の量が多いこと(過多月経)と関連することが多く、男性では消化管からの出血によるものが多いとされています。「鉄欠乏性貧血」の原因を調べると、婦人科的疾患(子宮筋腫など)や、消化器疾

患胃潰瘍、大腸癌、痔核などが見つかることがあります。鉄欠乏性貧血の治療は、食事療法で効果不十分な場合は、鉄剤の内服剤(飲み薬)を投与します。内服剤が副作用で飲めない場合や、貧血が高度で短期間にヘモグロビン濃度を上昇させたい場合に限り、鉄剤の注射薬を使用します。そのため、日ごろから鉄分の多い食品を摂取するように心がけましょう。

鉄欠乏以外の貧血の原因は様々ありますが、代表的なものは腎臓の病気で腎機能低下や血液の病気で造血の障害が知られています。病院で検査をすれば貧血の原因が鉄欠乏によるものかそうでないのかは、はっきりします。鉄欠乏でないことが判明すれば、それぞれの専門科で精密検査を行います。

繰り返しますが、健診等で貧血を指摘された場合は、必ず医療機関を受診しましょう。思わぬ病気が見つかることもあり、当院でも貧血の精密検査に対応しておりますので、気軽に受診してください。

問 長浜市立湖北病院  
82・3315(代表)

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

## ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく誇りに輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介していきます。

### 国登録有形文化財 「黒壁ガラス館本館(旧第三十銀行長浜支店)」

所在地: 元浜町  
指定日: 平成8年12月20日指定

黒壁ガラス館は市街地の札の辻に建つ近代建築で、黒壁スクエアのシンボルとして、多くの人々に愛されています。

現在はガラス工芸品を展示販売する店舗として利用されていますが、元は第三十国立銀行(大阪市)の長浜支店で、明治33年(1900)に木村音右衛門の設計、施工によるものです。建物は南の大手門通りを正面とし、東西の桁行15m、南北の梁間11mの規模を有します。

黒壁の名前が表すように、外壁には黒漆喰が塗られ、軒下に腕木を出し、外観は重厚な印象です。内観は当時流行した洋風のデザインを取り入れた擬洋風で、1階の天井は八角形と小四角形の格子を組み合わせ、中心の装飾にはパルメットという棕櫚の葉をモチーフにした彫刻が見られます。



▲リニューアルした黒壁ガラス館本館

問 歴史遺産課 (82・6510)

戦争や世界恐慌などの影響を受けて、この建物の所有は転々として、昭和29年に長浜カトリック教会が買い取った際には、黒い外壁を白いモルタル塗りにして、入口には切妻のポーチを付けるなど教会風の外観に改修されました。

昭和62年、教会の移転に伴い、この建物が解体されるという話が浮上すると、これを聞いた地元有志が株式会社黒壁を設立して、建物の保存活用を計画し、銀行当時の姿に戻すための改修を加えて、平成元年に黒壁一號館「黒壁ガラス館」として開館しました。令和3年3月には構造補強などの工事が完了し、以前より地震に強い建物になったほか、外壁の黒い塗装を塗り直して重厚感が増しました。

120年もの間、市民や観光客に愛されてきた黒壁ガラス館の生まれ変わった姿をぜひ一度ご覧ください。

### ●広報ながはまに関するご意見 (今後、特集を希望するテーマ)

年齢 歳 ( 男性 ・ 女性 )

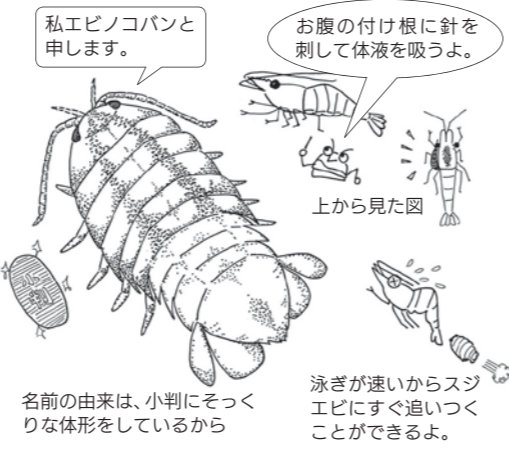
※担当課からの返事をご希望の場合は、氏名・ご住所・連絡先(電話・メールなど)をご記入ください。

### ●市政に関するご意見

## ながはまの自然 不思議発見!

エピソード 13 「エビの小判?」

NEW このエピソードを紹介するおもしろ動画はコチラ



私エビノコパンと申します。  
お腹の付け根に針を刺して体液を吸うよ。  
上から見た図  
泳ぎが速いからスジエビにすぐ追いつくことができるよ。  
名前の由来は、小判にそっくりな体形をしているから

市内には、川の生き物を身近に感じることが出来る素晴らしい環境が残っており、川に入って魚などの水生生物を捕まえた経験がある人も多いと思います。今月は、そんな川や水路で見られる不思議な生物「エビノコパン」を紹介します。

川や水路で、よく見つかるとスジエビの体の側面に、こげ茶色の楕円形のこぶのようなものが付いており、それを虫眼鏡で拡大してみると、平たいダンゴムシのような生き物であることがわかります。これがエビノコパンです。

エビノコパンは、ダンゴムシやワラジムシなどと同じ仲間の生物で、スジエビにくっついて体液(血液)のよう



▲エビノコパン

なもの(を)を吸って生活している寄生生物です。体の形から「小判」と名前がついていますが、エビからすれば小判のようないいものではありません。エビノコパンは巧みに宿主を乗り換えているようで、寄生されたスジエビは、体液を吸い尽くされて死んでしまうことはほとんどありません。エビノコパンの存在は昔から知られていましたが、どこで卵を産み、どこでエビにつくのかなど詳しい生態は明らかになっておらず、現在大学などで研究されています。未だ謎多き不思議な寄生生物エビノコパンを、ぜひお近くの川で探してみてください。

問 湖北野鳥センター (82・791200)